

---

# ああ雑草

yoshina

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ああ雑草

### 【Nコード】

N9947A

### 【作者名】

yoshina

### 【あらすじ】

ある夏の日、平次に送り付けられたあるモノとは。ギャグです。完全にギャグです。

「・・・で？どういつつもりやねんこれは」

目の前のダンボールを眺めながら携帯に向かって問う。

直接相対しているわけでもないが自然と目つきが悪くなるのは仕方が無い。

「つもりも何も、お中元だって。俺の真心たっぷりこめた」

電話越しの彼は軽い口調でさらりと「真心」と言う。

彼と知り合って早1年。

自分から彼にはあるが、彼から心のこもったものを受け取った覚えはない。

悲しいがない。

「ほおーう・・・これが工藤の俺への真心なんか？あん？」

ここは絶対に折れはしない。

「ああそうだ。箱いっぱいにあるだろっ？」

白々しいセリフをいけしゃあしゃあと吐く。

「ふーん、こんなにたくさん贈ってくれはっておおきになあ」

嫌味が文化な京都弁をわざと織り交ぜねちっこく言い返す。

初めて彼から贈り物が届き、わくわくしながら箱を開けた時の

あの脱力感がかつて味わったことがあるだろうか？

いや、ない。

「礼なんかいらなげ。コナンの時お前には世話になったから、ほんのお礼さ」

3

・・・ぶちっ

「アホぬかせやこのポケナスがあああ!!!」

この世界のどこにシソの葉箱詰めにして礼とか言っただけのける奴がおるっちゅーねん!!!」

大きな音ともに机を叩く。

そう、ダンボールにはありえないほどのシソの葉が入っていた。

それはもう、もっさりだ。

どっさりではない。もっさりだ。

「仕方ないだろ？うちの庭放っておいたらいつの間にかシソが大量繁殖してたんだし」

「それはお前の責任やろーが！お前が責任持ってミキサーかけてー気飲みせえー！」

それはそれでえげつないものができそつだ。

聞くところによると、どうやら夏休みの間ずっと読書に明け暮れていたため

庭が素晴らしく生い茂った森になったことに気付かなかつたらしい。ちなみに、いつもならこういうことになる前になんとかしてくれる彼の幼馴染は

現在国体で兵庫に遠征中だ。

遠征前も学校で合宿だったため新一の家には行かなかつたようである。

「お前は蘭ちゃんいーひんかつたら何も出来んのかあ！？俺に送りつける前に

自分でどうにかせい！」

思い切り怒鳴りつけると、それまで白々しいセリフを散々吐いた彼が開き直った。

「そりゃ俺だつて一生懸命他の人にも配ったんだぜ！あの「工藤新一」がご近所にシソを配り歩いたんだぜ！？だからお前も少しは協力しろよ！」

・・・あのエセさわやかスマイルでシソを配り歩いたのか。中々シユールな場面が想像できる。

「ああもつつつさいなあ！ーしゃーないからこの箱はどうにかしたるわ！配り歩いたんなら、もう後はこの箱だけなんやろ！？」

食べ物で粗末にはできない。幼い頃からのしつけをここまで恨んだことは無いだろう。

頭が痛くなるのを感じながら、自分が府警で配り回ったらなんとなるだろうと計算する。

いつそ大滝警部あたりなら箱ごともらってくれるかもしれない。

( 酷え )

しかしその計算は次の新一の言葉でもろくも崩れ去る。

「……あと2箱くらい」

こんな箱詰めがあと2箱もあるのか。  
少し気が遠くなりそうだった。

「……………今度の日曜そっち行ったるわ。それで一緒にシソの今後を考えようや」

恐らく今新一の家の庭はとんでもないことになっているだろう。  
いつそのこと業者を呼んで掃除したらいいのに、「他人が敷居を跨ぐのは嫌だ」  
という我がまま、いや駄々こねでそれも出来ない。

この一見なんでもできる完璧男は放っておくと、いつも予想しないことを起こす。  
しかし何度起こしても大目に見てしまうその幼馴染と自分が甘すぎるのにも  
一因はあるのだが。

「ああ。悪いな服部……それでもう一個言つてことがあるんだけど」

「なんや?」

「なんかシイタケも生えてきた」

次の日曜、上京した服部と帰京した蘭が新一を散々叱り  
3人で庭を掃除する羽目になるのであった。

(後書き)

真面目な話ばかり書いてると、たまにこついうしょーもないギャグが書きたくなります。

・・お粗末さまでした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9947a/>

---

ああ雑草

2011年1月25日17時20分発行